

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(男性, 10歳未満)あります。型別はO26(VT1)です。本年の累積報告数は2例となっています。
詳細は下記ホームページをご覧ください。
○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が3例(男性 2例(70歳代), 女性 1例(70歳代))あります。本年の累積報告数は11例となっています。平成25年4月1日に五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降、平成25年の累積報告数は15例でした。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は2.88(196例)となり、第9週(2月24日～3月2日)以降連続して減少が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 2例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 91例(肺結核 45例, その他結核 17例, 潜在性結核感染者 29例)うち喀痰塗抹陽性 22例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:急性脳炎(病原体:インフルエンザウイルスA) 1例(第14週追加分)【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 11例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	2.88	196
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.90	242
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.85	35
	③ 水痘	0.41	17
	④ 突発性発しん	0.32	13
	⑤ 咽頭結膜熱	0.15	6
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

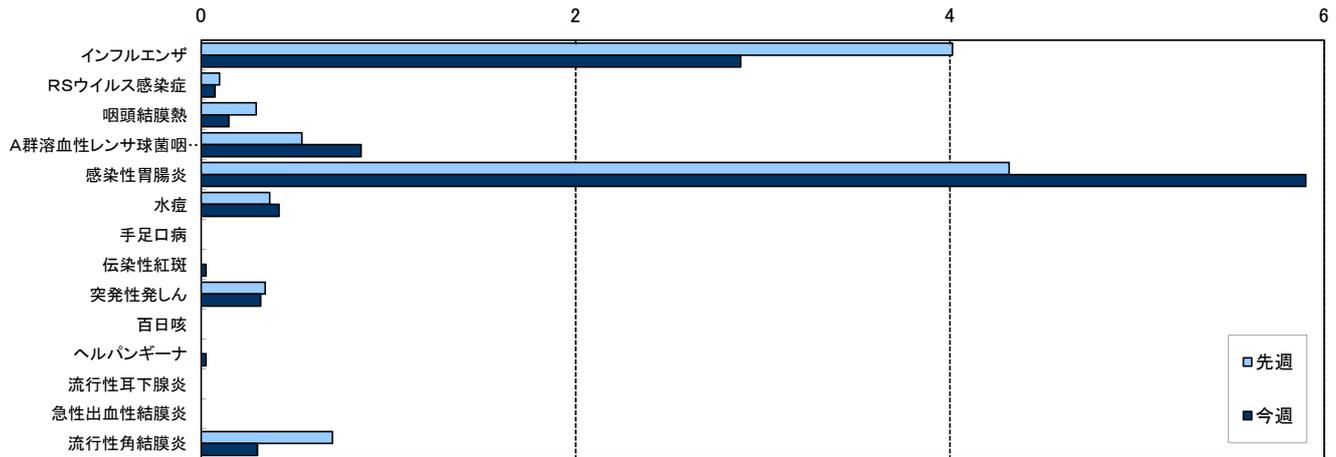
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成26年4月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

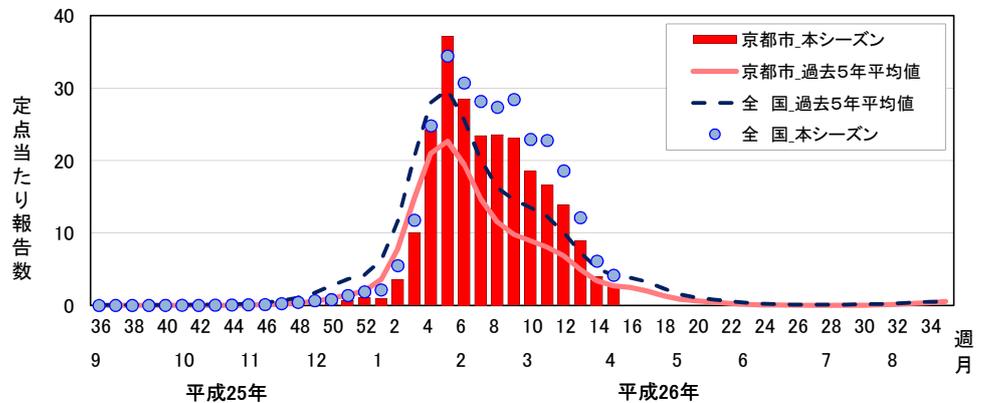
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第11週	1,127
第12週	941
第13週	604
第14週	273
第15週	196
累積報告数 (第36週以降)	16,483

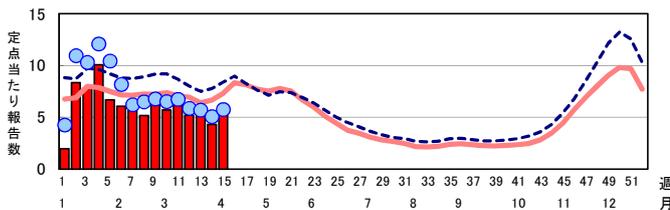


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

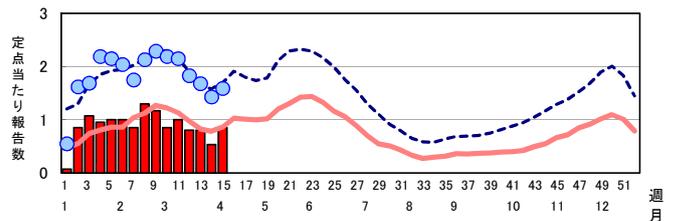
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

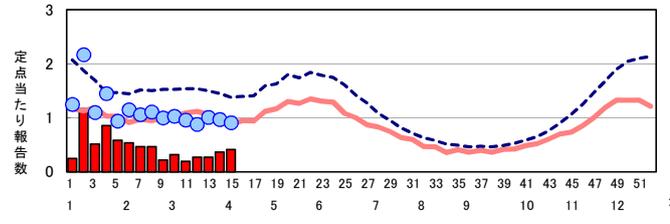
1 感染性胃腸炎



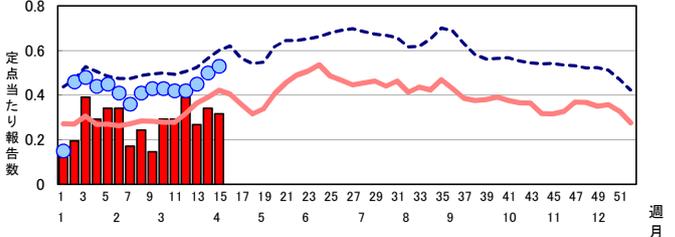
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 水痘

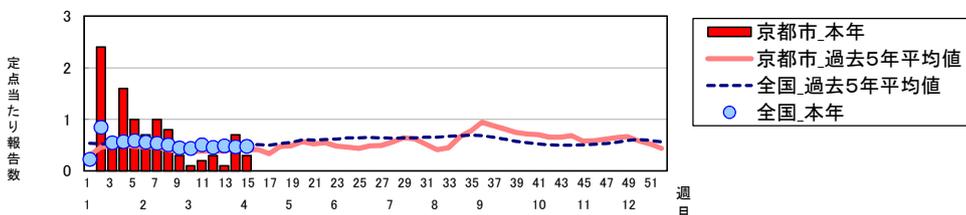


4 突発性発しん



<眼科定点>

流行性角結膜炎



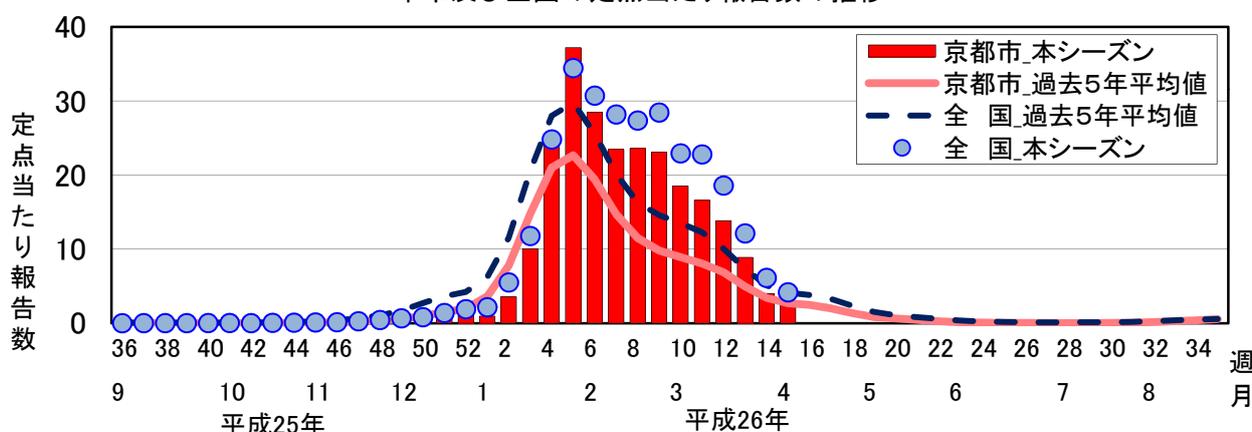
第15週(4月7日～4月13日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は2.88(196例)となり、第9週(2月24日～3月2日)以降連続して減少が続いています。第15週は学校が新学期を迎えた週でしたが、2013/14シーズン半数以上を占めた15歳未満の年齢層において、患者数が増加することはありませんでした。12月末から始まった流行は終息に向かいつつあります。

抗インフルエンザ薬耐性ウイルスに関して、今シーズン、京都市では検出されませんでした。全国的にみると、シーズン開始以来、抗インフルエンザ薬耐性AH1pdm09ウイルスの検出報告が続きました。オセルタミビル・ペラミビル耐性株の検出率は4.6%(85株/1856株)であり、2012/13シーズンの検出率1.8%(2株/111株)より増加しています。特に北海道では、119株の解析株のうち38株が耐性株で、札幌市およびその周辺地域で抗インフルエンザ薬未投与例から検出されています。ザナミビル及びラニナミビルに耐性を示すウイルスは、これまでのところ1例も報告されていません。また、AH3型及びB型については、解析された株(AH3型 112株、B型 94株)すべてがオセルタミビル・ペラミビル・ザナミビル・ラニナミビルに対して感受性でした。今後、抗インフルエンザ薬の投与に際しては、各地域での耐性ウイルスの検出状況等をご参照ください。

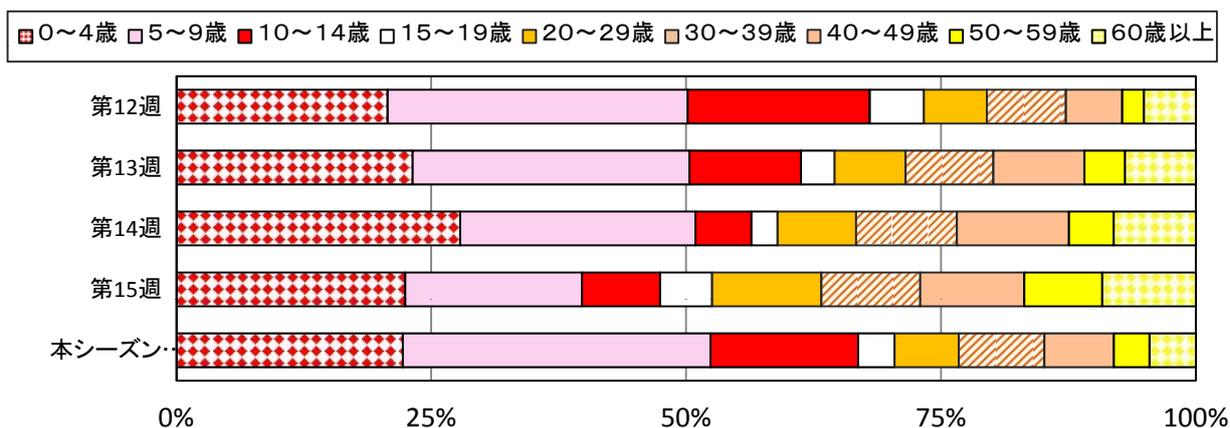
○国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ「インフルエンザウイルス分離・検出速報」
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

本市の年齢階級別報告割合の推移



抗インフルエンザ薬耐性株検出状況(平成26年4月14日現在)

	AH1pdm09		AH3		B	
	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル
耐性株数 (%)	85 (4.6%)	0	0	0	0	0
解析株数	1856	177	112	112	94	94
分離・検出 報告数	3051		1515		2086	